



平成26年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月25日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社KADOKAWA

コード番号 9477 URL <http://www.kadokawa.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 佐藤 辰男

問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営統括本部副統括本部長 (氏名) 渡辺 彰

TEL 03-3238-8561

四半期報告書提出予定日 平成25年11月12日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第2四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	72,203	△9.9	2,816	△25.7	3,501	△19.6	3,787	136.5
25年3月期第2四半期	80,125	18.0	3,792	9.8	4,357	27.0	1,601	△44.4

(注) 包括利益 26年3月期第2四半期 6,851百万円 (155.2%) 25年3月期第2四半期 2,684百万円 (5.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第2四半期	143.25	125.96
25年3月期第2四半期	61.87	55.09

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第2四半期	139,208	68.4	95,774	68.4	95,774	68.4
25年3月期	139,898	61.8	87,545	61.8	87,545	61.8

(参考) 自己資本 26年3月期第2四半期 95,208百万円 25年3月期 86,428百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	0.00	—	45.00	45.00
26年3月期	—	0.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	35.00	35.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

25年3月期期末配当金の内訳 普通配当 35円00銭 記念配当 10円00銭

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

連結業績予想につきましては、合理的な業績予想の算定が困難であるため、記載しておりません。なお、当該理由等は、添付資料3ページに記載の「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

26年3月期2Q	27,420,928 株	25年3月期	27,260,800 株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

26年3月期2Q	36,452 株	25年3月期	1,377,474 株
----------	----------	--------	-------------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

26年3月期2Q	26,442,591 株	25年3月期2Q	25,883,368 株
----------	--------------	----------	--------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中でありませ

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、経済・金融政策などを背景に、輸出企業を中心とした企業業績の改善が見られるなど、全体としての景況感改善されつつあります。また、スマートフォンやタブレット端末の普及が進みデジタル化されたコンテンツを様々なシーンで手軽に楽しめる環境が整い、新たなビジネスモデルの可能性は日々高まってきています。

こうした環境下、当社グループは出版事業を核に、あらゆるコンテンツ領域をカバーするメガコンテンツ・パブリッシャーを標榜するだけでなく、デジタルコンテンツプラットフォームとして新たなサービスへの挑戦と事業構造改革を進めております。

書籍関連では、メディアミックス作品の拡販、新規ジャンルの開拓、既存メディアに留まらない新たな才能の発掘を進めております。次期主力作品の育成に取り組んでいるコミック部門における売上高の減少や大型作品の展開時期によって短期的な売上高の変動はありますが、概ね堅調に推移しております。

雑誌・広告関連では、固定費の削減や不採算部門の整理を進める一方、急速に普及しているスマートフォン向け新サービスの開発や、平成25年3月に株式会社ドワンゴとの合弁会社として発足した株式会社スマイルエッジにおいて、ネット上の新たな広告ビジネスへの取り組みを始めております。また、新たな時代を担うビジネスマン向けの情報誌「アスキークラウド」を創刊するなど、新規商品の開発にも取り組んでおります。

映像関連では、平成25年3月にシネコン事業を売却し、経営資源をコンテンツ制作にシフトすることで、継続的、安定的な事業運営を行うよう努め、黒字回復基調はより強固なものになってまいりました。

ネット・デジタル関連では、電子書籍への取り組みを加速させ、紙の書籍との同時発売比率のアップや積極的なキャンペーン展開によって売上高をさらに伸ばしております。投入作品数増進のプロジェクトを設け、書籍の電子化をさらに加速させております。またBOOK☆WALKERには、作品を提供する出版社数がさらに増え、業界インフラとしての地位を固めております。

海外関連では、台湾の出版事業が堅調に推移し、香港のエンタテインメント事業も堅調に推移しておりますが、より成長性の高い地域や事業内容へシフトすることによって海外事業を拡大するため、現地の連結子会社を売却し、この結果、特別利益28億25百万円を計上いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の連結業績は、売上高722億3百万円（前年同期比9.9%減）、営業利益28億16百万円（前年同期比25.7%減）、経常利益35億1百万円（前年同期比19.6%減）、四半期純利益37億87百万円（前年同期比136.5%増）となりました。

なお、セグメント情報との関連は、単一セグメントであるため記載を省略しております。

各ジャンルにおける売上貢献作品は次のとおりであります。

(単行本)

「シャボンだまのきせき」チョコザイ／こう（角川書店）

「ルイージマンション2 カンペキガイドブック」（エンターブレイン）

「会うたびに「あれっ、また可愛くなった?」と言わせる」神崎恵（中経出版）

「大泉エッセイ ー僕が綴った16年」大泉洋（メディアファクトリー）

(文庫)

「県庁おもてなし課」有川浩、「マリアビートル」伊坂幸太郎（角川書店）

(ライトノベル)

「ソードアート・オンライン」川原礫、「俺の妹がこんなに可愛いわけがない」伏見つかさ

(アスキー・メディアワークス)

「カゲロウデイズ」じん（自然の敵P）（エンターブレイン）

(コミックス)

「デッドマン・ワンダーランド」片岡人生／近藤一馬（角川書店）

「とある科学の超電磁砲」鎌池和馬／冬川基／はいむらきよたか（アスキー・メディアワークス）

「テルマエ・ロマエ」ヤマザキマリ、「坂本ですが?」佐野菜見（エンターブレイン）

「となりの関くん」森繁拓真（メディアファクトリー）

(劇場映画)

「ライジング・ドラゴン」「劇場版 STEINS ; GATE 負荷領域のデジャヴ」「貞子3D2」（角川書店）

(DVD、Blu-ray)

「トワイライト・サーガ/ブレイキング・ドーン Part 2」「デート・ア・ライブ」「ライジング・ドラゴン」

(角川書店)

「鍵泥棒のメソッド」「STEINS ; GATE Blu-ray BOX」（メディアファクトリー）

(ゲーム)

PSP「境界線上のホライゾンPORTABLE」(アスキー・メディアワークス)

PS Vita「フォトカノKiss」(エンターブレイン)

PS3、Xbox360「KILLER IS DEAD」(角川ゲームス)

(2) 財政状態に関する説明

資産は、前期末に比べて6億90百万円減少し、1,392億8百万円となりました。現金及び預金が増加したものの、受取手形及び売掛金並びに投資有価証券が減少しました。

負債は、前期末に比べて89億19百万円減少し、434億33百万円となりました。支払手形及び買掛金が減少したことに加えて、新株予約権が行使されたことに伴い、新株予約権付社債が減少しました。

純資産は、前期末に比べて82億29百万円増加し、957億74百万円となりました。四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したことに加えて、新株予約権が行使されたことに伴い、自己株式が減少し、いずれも純資産の増加要因となりました。

自己資本比率は、期首に比べて6.6ポイント上がり、68.4%となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益58億1百万円、関係会社株式売却益28億26百万円、売上債権の減少78億71百万円等により、77億8百万円の収入(前年同期は62億42百万円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出17億38百万円、投資有価証券の売却による収入19億78百万円、連結範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入30億27百万円等により、23億45百万円の収入(前年同期は14億22百万円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払11億64百万円、少数株主への配当金の支払6億86百万円等により、18億55百万円の支出(前年同期は8億29百万円の支出)となりました。

以上の結果、為替換算差額を含めて86億67百万円の収入となり、現金及び現金同等物の四半期末残高は、265億43百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループを取り巻く市場環境は、出版、映像ともに厳しく、かつ、極めて流動的に変化しております。この環境下にあっても、当社グループは、成長を常に志向すること、新規事業への挑戦を続けることによって、市場や顧客のニーズに応えるコンテンツを創出してまいります。

当社グループは、出版と映像の相乗効果によって製品付加価値の向上を図ることを追求しております。また、電子書籍やネット事業等へ積極的に展開して、新たな商品やサービスを開発することに努めております。いずれの場合も、保有するコンテンツやノウハウを最大限に活用することを基本方針としております。

当社は平成25年10月1日に連結子会社9社を吸収合併して、事業会社としての強固な基盤を確立いたしました。今後は、当社を先頭としてグループの総力を挙げて、グローバル戦略、IP戦略、デジタル戦略を一段と加速してまいります。

当社グループは変化の激しい経済環境のなか、さらなる成長を目指して、事業構造の改革や新規事業への積極的な進出を行なってまいります。このため、短期的視点で企業活動の動向を見極めることは困難と判断いたしました。そのため、平成26年3月期の連結業績予想は、合理的な算定が困難であるため記載しておりません。

2. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,174	26,786
受取手形及び売掛金	43,218	34,568
有価証券	—	301
たな卸資産	14,223	15,249
繰延税金資産	4,517	4,254
その他	3,219	1,859
貸倒引当金	△91	△56
流動資産合計	83,262	82,963
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,979	6,227
工具、器具及び備品（純額）	1,547	1,271
土地	10,497	10,669
その他（純額）	565	1,745
有形固定資産合計	19,590	19,913
無形固定資産		
のれん	642	517
その他	2,685	2,943
無形固定資産合計	3,327	3,461
投資その他の資産		
投資有価証券	24,064	23,641
繰延税金資産	469	446
その他	9,473	9,050
貸倒引当金	△288	△268
投資その他の資産合計	33,718	32,869
固定資産合計	56,636	56,244
資産合計	139,898	139,208

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	19,674	16,984
短期借入金	55	—
未払法人税等	961	1,334
賞与引当金	1,568	1,590
返品調整引当金	3,886	3,648
その他	9,123	7,079
流動負債合計	35,270	30,637
固定負債		
新株予約権付社債	11,000	7,250
長期借入金	339	240
繰延税金負債	2,195	1,761
退職給付引当金	2,716	2,856
その他	831	688
固定負債合計	17,082	12,796
負債合計	52,353	43,433
純資産の部		
株主資本		
資本金	26,330	26,530
資本剰余金	27,375	27,575
利益剰余金	34,787	36,932
自己株式	△3,932	△104
株主資本合計	84,561	90,934
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,248	5,604
土地再評価差額金	△328	△328
為替換算調整勘定	△2,052	△1,001
その他の包括利益累計額合計	1,867	4,274
少数株主持分	1,116	565
純資産合計	87,545	95,774
負債純資産合計	139,898	139,208

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
売上高	80,125	72,203
売上原価	59,535	52,514
売上総利益	20,589	19,689
返品調整引当金戻入額	3,906	3,869
返品調整引当金繰入額	4,069	3,736
差引売上総利益	20,427	19,822
販売費及び一般管理費	16,635	17,006
営業利益	3,792	2,816
営業外収益		
受取利息	30	16
受取配当金	100	157
負ののれん償却額	40	40
持分法による投資利益	152	377
受取保険金	165	40
物品売却益	84	91
その他	61	30
営業外収益合計	634	754
営業外費用		
支払利息	66	46
その他	3	23
営業外費用合計	69	69
経常利益	4,357	3,501
特別利益		
関係会社株式売却益	—	2,826
持分変動利益	115	—
その他	1	—
特別利益合計	116	2,826
特別損失		
固定資産除却損	29	15
減損損失	149	23
投資有価証券売却損	—	98
投資有価証券評価損	1,466	380
会員権評価損	9	—
特別退職金	59	8
その他	7	—
特別損失合計	1,722	526
税金等調整前四半期純利益	2,751	5,801
法人税等	1,110	1,461
少数株主損益調整前四半期純利益	1,641	4,339
少数株主利益	39	551
四半期純利益	1,601	3,787

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,641	4,339
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	858	1,355
為替換算調整勘定	173	1,061
持分法適用会社に対する持分相当額	11	94
その他の包括利益合計	1,043	2,511
四半期包括利益	2,684	6,851
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,631	6,195
少数株主に係る四半期包括利益	52	656

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,751	5,801
減価償却費	1,126	964
減損損失	149	23
のれん償却額	102	84
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	67	139
受取利息及び受取配当金	△130	△174
支払利息	66	46
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	△2,826
持分法による投資損益 (△は益)	△152	△377
投資有価証券評価損益 (△は益)	1,466	380
売上債権の増減額 (△は増加)	1,934	7,871
たな卸資産の増減額 (△は増加)	406	△1,087
仕入債務の増減額 (△は減少)	△428	△1,760
その他	△934	△1,406
小計	6,425	7,678
利息及び配当金の受取額	155	234
利息の支払額	△64	△53
法人税等の支払額	△274	△151
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,242	7,708
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の増減額 (△は増加)	31	78
有価証券の取得による支出	—	△302
有価証券の売却及び償還による収入	600	—
有形固定資産の取得による支出	△522	△1,738
無形固定資産の取得による支出	△707	△605
投資有価証券の取得による支出	△931	△284
投資有価証券の売却による収入	—	1,978
保険積立金の解約による収入	416	208
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	3,027
その他	△308	△17
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,422	2,345
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額 (△は減少)	△6	—
長期借入れによる収入	70	40
長期借入金の返済による支出	△43	△31
配当金の支払額	△905	△1,164
少数株主への配当金の支払額	△30	△686
その他	86	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	△829	△1,855
現金及び現金同等物に係る換算差額	79	468
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	4,069	8,667
現金及び現金同等物の期首残高	11,934	17,876
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,003	26,543

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期連結累計期間において、転換社債型新株予約権付社債に係る新株予約権が行使されたことに伴い、新株を発行したことで資本金が2億円、資本剰余金が2億円増加し、また、自己株式を譲渡したことで利益剰余金が4億78百万円、自己株式が38億28百万円減少し、合計で株主資本が37億50百万円増加しております。